

首都圏白鷹会総会が開催される



1. 会場では町内の物産を販売。白鷹納豆やイナゴ、みそもちなどが人気だった。毎年出店している「工房 お富久呂」の漬物は大人気 2. 懇親会の席で行われた抽選会では、白鷹町出身の画家、別府忠雄さんの作品も手渡された

首都圏に在住の白鷹町出身者で構成される首都圏白鷹会。その第37回目となる総会が11月28日、上野精養軒（東京都）を会場に開催されました。この日は、約200人が出席。町からも町長はじめ町議会、町産業会からも約20名が出席し、町の様子を紹介しながら情報交換を行いました。首都圏白鷹会の加藤栄助会長（蚕桑出身）は「先日白鷹町を訪問したが、やはりふるさと白鷹町はすばらしく良いところだと感じた」「今日は、久しぶりに会った友人と白鷹弁で会話を楽しんでほしい」とあいさつされました。総会では、平成27年度の活動報告や役員人事などが協議され、その後は懇親会を開催。旧友はもちろん、「初めてお会いした」という皆さんも、白鷹町の共通の話題などで会話が花が咲きました。また、懇親会の最後には出席者全員で白鷹町民歌・県民歌・ふるさとを斉唱。出席者の皆さんは、目を閉じ、ふるさと白鷹を思い浮かべながら歌われました。

～離れても続く、ふるさと白鷹とのつながり～ 出席者の声を聞きました。

広報誌で白鷹町の現況を把握したり、毎月の町報川柳に作品を投稿させていただいています。白鷹町といえば、高校時代にお世話になったこともあり、長井線（現フラワー長井線）には強い思い入れがあります。存続が危ぶまれていますが、やはりなくなってほしくないですね。私は高校卒業と同時に白鷹町を離れましたが、ふるさと白鷹には、今の自分の生きている原点が大きな存在としてあるように思います。今後も白鷹町の皆さんとお会いできる機会を大切にしていきたいと思っています。（齋藤靖夫さん・鮎貝出身）

白鷹町を離れて長くなりますが、兄弟が白鷹町に住んでいるため、今でも一年に一回は白鷹町を訪れ、親戚や、町に住む知り合いの方とお会いします。あと、私の人生の転機を迎えた荒砥中学校時代、当時大変お世話になった恩師とは現在も親交が続いています。私にとって、そんな「大好きな人たちが住むまち」が白鷹町です。これからも、私を育ててくれた白鷹町や白鷹町に住む人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。（平木市子さん・荒砥出身）